



# 化学物質の内分泌かく乱作用に関する評価等推進業務

平成28年度要求額  
225百万円（216百万円）

## 背景・目的

平成8年に海外の著書「奪われし未来」をきっかけに、化学物質が内分泌系をかく乱する作用が人の健康や野生生物に及ぼす影響に社会的関心が高まった。

我が国では、平成10年に「環境ホルモン戦略計画SPEED'98」、平成17年に「化学物質の内分泌かく乱作用に関する環境省の今後の対応方針について－ExTEND2005－」を策定。平成22年からは、「化学物質の内分泌かく乱作用に関する今後の対応－EXTEND2010－」に基づき、作用・影響評価等を加速化している。

諸外国では、既に内分泌作用をもつ化学物質に関する規制の枠組みが定められていることに加え、国際的に2020年までにリスク管理を行うべき課題として取り上げられる等、我が国でも早急の対応が求められている。

## 事業概要

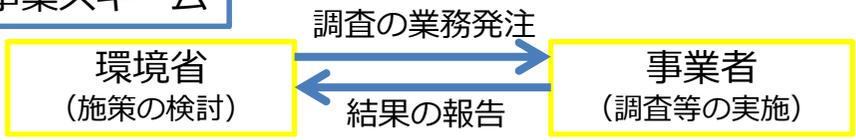
本事業では平成22年に策定された、EXTEND2010に基づき、取組を推進している。特に、内分泌かく乱作用をもつ化学物質への今後の対応を検討するために、有害性の評価を行うために必要な試験法の開発及び実際の化学物質の内分泌かく乱作用に関する作用・影響評価を行うこと、諸外国との国際協力事業に重点を置いている。

## 事業目的・概要等

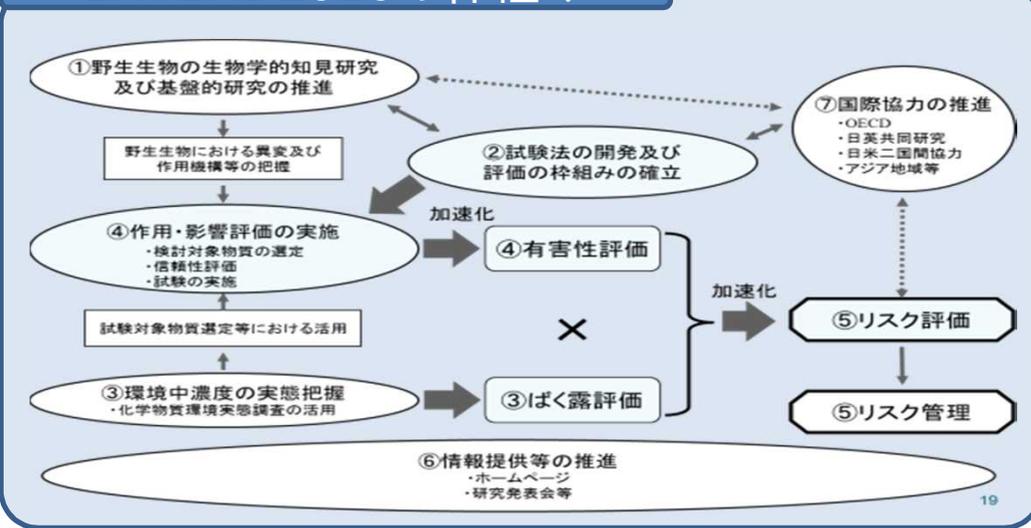
## 期待される効果

平成27年4月にOECDで、有害性のための確定試験が承認されており、平成27年度中に公開が予定されている。この試験を実施することで、化学物質の内分泌かく乱作用に関する有害性およびリスクに関する評価を実施することができる。その結果を踏まえ、2020年までに具体的なリスク管理を行うための議論を加速化させることができる。

## 事業スキーム



## EXTEND2010の枠組み



## <主な試験法の開発状況>

注1：第1段階試験 → 内分泌系への影響を確認

第2段階試験 → 有害性の確認

注2：◎開発済み、○開発中（完成間近）、△開発中、⊙H27年承認

区分	第1段階試験 管内試験	第1段階 生物試験	第2段階 生物試験
検出可能な作用			
エストロゲン様作用	◎	◎	⊙
抗エストロゲン様作用	◎	◎	◎
アンドロゲン様作用	◎	◎	◎
抗アンドロゲン様作用	○	△	⊙
甲状腺ホルモン様作用	◎	△	⊙
抗甲状腺ホルモン様作用	◎	△	◎
幼若ホルモン様作用	△	○	◎
脱皮ホルモン様作用	◎	△	△

## イメージ

有害性評価、  
リスク管理へ向けた議論へ